

みんなが平和を創ってほしい

読谷小学校 六年 知花 心愛

私たちは平和に暮らせています。でも、七十五年前までは、おそろしい戦争がおきていました。私は、実際に戦争体験をした人の話を聞き、改めて戦争は絶対におきてはならないと強く思いました。

一九四五年の四月に約二十万人のアメリカ軍が沖縄に上陸しました。中学生から高校生までの男子生徒が兵士になり、その半数が戦死してしまいました。女子生徒は負傷兵の看護にあたりました。当時、兵士をしてきた人の話によると、仲のよかった友達がお腹をうたれ、腹わたから大量の血を流して死んでしまった。と言っていました。数か月続いたこの沖縄戦では県民六十万人のうち、十二万人以上の人々がなくなりました。

私は貧しい戦争の中、人々は一体何を食べていたのだろうか、疑問に思ったので調べてみ

ました。戦争の時は、食べる物がなかつたため、カエルやカタツムリ、ハブなども食べるれていたことが分かりました。当時は食材が不足していたので、たくさん食べることもできなかった。たので、たくさん工夫をしていました。たくさん食べるために皮や骨、種など全て残さず食べたり、通常の三倍ほど水を増やしてかさ増しするなどといった工夫を知って、感心しました。

私は実際に戦争体験をした吉川さんと上原さんのお話を聞きました。吉川さん一家がかくれている場所でねていたら急にうめき声が聞こえて、吉川さんがおき上がったけど薬品のせいで体がおき上がらなかつたと言っていました。吉川さんの弟は右半身が傷だらけになって二日後になくなってしまいました。母さんが穴をほって弟をまいそうしました。まいそうした時は自分も死んでしまふんだという気持ちだったけど、自分の子どもをまいそうする母の気持ちは今考えると、もう母は

どんなに辛い気持ちだったか。となみだながらに当時のことを私たちにはなしてくれませんでした。戦争は人が人でなくなっってしまう、ふつうなら親が子どもを守るけど、戦争がおこると子どもがケガをして歩けなくなる子どもを置いていく親も中にはいる。子どもを捨ててるつもりはないけど結局捨ててしまっっていると言っていました。

吉川さんや上原さんの話をきいて、戦争って本当に悲<sup>ひ</sup>さんだなと思いました。あんなお話を聞けることはなかなかないと思うので吉川さんや上原さんから聞いたお話は次の世代に伝えていきたいと思います。大切なことは一人一人が平和を創<sup>つ</sup>っていくことだと思います。一人一人が平和を創<sup>つ</sup>ていくことだと思いました。